



ZENSOUSEI 21th

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) そうせい第171号平成27年11月発行

SOUSEI

2015.11 No.171



【特集】
防災、人とのつながり

「特集」 防災、人とのつながり

災害復興支援部

座談会

2015年9月15日午前10時から、曹洞宗檀信徒会館4階「柏の間」で災害復興支援部の座談会が行われ、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）災害復興支援部から事務局長の城市泰紀師、アドバイザーの宮下俊哉師、アドバイザーで前事務局長の伊藤和貴師、以上3人が出席しました。冒頭、9月10日に発生した豪雨災害に被災された方がたにお見舞いを申し上げて、座談会は始まりました。

関東・東北豪雨災害に対して

宮下 「早速ですが、5日前の豪雨災害に関する、災害復興支援部の対応はどうなっていますか？」

城市 「災害発生以降、災害メーリングリスト（以下、災害ML）を使って情報収集を行っています。昨日（14日）地元自治体による県外ボランティアの募集が始まった段階です

ので、まずは情報収集に力を上げています。」

伊藤 「大きな災害が起きると災害MLへの登録者数が増える傾向にありますね。」

城市 「はい。災害発生前の登録者数は250人でしたが、災害発生後すぐに十数人が増えました。」

宮下 「連絡協議体である全

城市泰紀
事務局長



宮下俊哉
アドバイザー



伊藤和貴
前事務局長



曹青のメリットを生かして、情報の共有化、問い合わせ窓口の一本化が大切になりますね。」

城市 「はい。今後、全曹青は情報の収集と共有を行い、現地からのボランティア要請とのマッチングに向けて動いています。今のところ、茨城県曹洞宗青年会、シャンティ国際ボランティア会、全日本仏教青年会から茨城県の常総市へ入って欲しいとの要請がありました。（以降の活動詳細はP5をご覧ください）」

伊藤 「報道されているのは、主に茨城県、栃木県、宮城県の3県ですが、それ以外での被害報告はありましたか？」

城市 「昨日（14日）は午前中、福島県にある曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室（以下、復興支援室分室）において会議がありました。午後からは東京で行われる全曹青の執行部会へは出席せずに、福島県の川俣町方面へ行きました。」

伊藤 「あの辺りは通行止めもありましたね。」

城市 「はい。全国紙では報道されていませんが、国道の崩落など被害が出ていました。川俣町にある数件の寺院では、本堂や庫裡の床下浸水があり、また、お檀家さまにも被害が出ているそうです。おそらく川俣町ではボランティアセンターが立ち上がりませんが、どうだったのか、被災寺院には被害確認をしていただいて、必要があれば曹洞宗福島県青年会や全曹青に対して、支援要請をしていただくようお願いしました。」

前事務局長を引き受けた経緯

城市 「ぜひお伺いしようと思っていたのですが、前事務局長である伊藤師は、どのような経緯で事務局長を務められることになったのですか？」

伊藤 「私が全曹青の復興支援部の事務局長に任命されたのは、3年前の全曹青20期からです。更にその2年前、全曹青18期の会長を務められた久間泰弘師の師寮寺である成林寺様に全国曹洞宗青年会災害復興支援部現地事務所が置かれた19期から、現地の担当庶務として務めさせていただきました。その後、私自身が引き続き関わらせていただきたいとの思いもありましたので、事務局長をお引き受けいたしました。それと同時に現地事務所が福島駅前に移転し、曹洞宗宗務庁総務部福祉課に設けられた復興支援室分室と同じ場所を拠点とすることになりましたので、宗務庁非常勤職員としても、勤務することになりました。」

城市 「静岡県から福島県へ通われることは、大変だったのではないですか？」

伊藤 「確かに大変ではあったのですが、1年ほどして『出来ること以上のことは出来ない』と気が付いてから、燃え尽きてしまわないように、何とか務めようと考えました。私が事務局長を務めた2年間、四国、大雨や山形県の豪雨災害、去年の兵庫、県丹波市や広島県の水害など、多くの災害がありました。そうした災害が起き

るたびに各地の曹洞宗青年会から、『何か出来ること、お手伝い出来ることはありませんか？』と声をかけていただいていた、そのことは私自身としても嬉しくて、とても力になりました。」

城市 「伊藤師が仰っているように『自分一人で出来ること、出来ないこと』を明確にするのは大切なことだと思います。私も今期の事務局長として、次期に引き継げるような災害復興支援部の体制を作っていきたいと考えています。」

今期の取り組み

宮下 「災害復興支援部における、今期の取り組みはどのようなものがありますか？」

城市 「今期からの取り組みとして、防災マップの作成があります。各都道府県の曹洞宗青年会に、過去に起こった災害、将来に起こりうる災害、災害発生時に支援拠点となる寺院、以上3項目を報告していただくようにお願いしています。」

伊藤 「ストックヤードはどうですか？」

城市 「はい。ストックヤードのさらなる設置を促進するとともに、すでに全国5カ所あるストックヤード内の食材をどのように更新していくかが課題となっています。これは、11月3日に總持寺様で行われる『つる



み夢ひろば』で炊き出しを実施して、周知を図りつつ、更新していく予定です。」

宮下 「インターネットを使った情報発信ですが、どのような状況になっていますか？」

城市 「インターネットの活用は主に2つで、災害復興支援部の災害ML、及び復興支援室分室と共同管理のフェイスブックのページがあります。災害MLは、メールの発信頻度や本文の情報量があまり多くなり過ぎると読んでもらえない心配がありますので、その点を注意するように心がけています。フェイスブックは、即時性や情報の鮮度に重きを置くのか、正確性やネットに公開する慎重さに重きを置くのか、悩みなから活用を考えているところです。」

東日本大震災

宮下 「4年半経過した東日本大震災の被災地各地の現状はそれぞれに様々なので一様にとらえることはできませんが、城市師は、全曹青として活動や支援を呼びかけていく中でどのような活動や取り組みが必要だと思われますか？」

城市 「被災地では、仮設住宅から復興支援住宅や自力再建した住宅へ移られる方が多数になってきました。そうすると、仮設住宅で築いたコミュニティが解体してしまい、移転先でのコミュニティ形成、人間関係の再構築をしなければならぬ問題が生まれています。また、復興支援住宅や自力再建した住宅への転居がまだ叶わない方が、移れる人との違いに直面して、新たに心の葛藤を抱える問題もあります。被災地のこうした変化の中で、行茶活動も新たなニーズが生じていると感じています。」

宮下 「私たちは何か特別なことをするのはなく、そっと手を差し伸べる。近くにいる、ちょっとしたお手伝いをする。それが被災者の方がたにとって、自らが立ち直っていく力となればと思います。」

伊藤 「はい。特に行茶活動は、行政や社会福祉協議会などからの期待が高いと感じています。その一番の核となるのは、やはり継続性ではないでしょうか。こうした期待に応える為にも、関わる人を増やしていく努力をこれからも続けていかねばなりません。私自身、災害ボランティア活動に詳しくありませんでしたが、活動しながら学ぶことが多くありました。全曹青の会員の方がたにぜひ興味を持っていただいて、全曹



紀泰城市
事務局長

伊藤和貴
前事務局長

宮下俊哉
アドバイザー

青の活動に参加していただけたらと思います。災害復興支援部の活動が何かのきっかけ作りになればと思います。」

宮下 「そうですね、きっかけ作りです。誰もが『誰かがやるだろう』と考えがちですが、そこに災害が起こってしまうと、そうした弱い部分から崩れてしまいます。寺院は基本的に地縁組織ですから、まず地域のお檀家さまや近隣の方がたに寄り添っていく。そうした日常の関係性やご縁が繋がって、それが新しい関わりや結びつきに繋がって、さらには地域以外での災害ボランティア活動にも繋がっていく。全曹青や災害復興支援部は、普段の繋がりが広がっていくような体制、地域での活動をバックアップできる体制を目標としたいですね。」

城市 「はい、まさにその通りです。有馬実成老師が仰っている『ボランティアは触媒である(※)』という言葉をいつも肝に銘じています。各都道府県の曹洞宗青年会の会員の方がたには、全曹青執行部に参加している委員を通して、全曹青としての活動にも繋がりを感じていただいて、是非、活動に参加し、経験していただきたいです。」

事務局長へのアドバイス

城市 「お二人から、事務局長を務める上でアドバイスをいただけませんか？」

伊藤 「災害復興支援部に関わる方がたはそれぞれ、文章が上手い、(傾聴などの)現場を盛り上げるのが上手い、と人によって得手不得手があるので、事務局長はそれを見極めながらも積極的にお手伝いをお願いすることが大切だと思います。」

宮下 「普段から、また、災害の大小に関わらず、一人ひとりがどのような現状にあるのか?想像力を働かせながら、関心とアクションを考えていただきたいと思っています。宗侶は檀務も大切なところであり活動には難しいところもあるかと思えます。しかしながら、災害はそんな日常が崩れ、課題が浮き彫りになってきます。災害や防災意識への学びは身近な課題の学びでもあると思いますので、常日頃から研修会や情報発信などの取り組みを行っていただきたいと思っています。」

以上、2時間にわたる座談会では、災害復興支援部として、曹洞宗の僧侶として、そして一人の人間として、眼前の問題に立ち向かおうと模索する、ひたむきな現状が語られました。

なお、災害MLへの登録は、全曹青ホームページ「般若」の「災害ML登録フォーム」から行えます。

災害メーリングリスト登録フォーム

<http://www.sousei.gr.jp/WP2/>

?page_id=4797

曹洞宗専司御用品承り



〒604-8074 京都市中京区雷小路通三条南入
電話 075-221-3033
FAX 075-221-4640

心をかたちに 感動の旅!

ビーエス・グループ会

〔幹事〕東京本社

〒105-0004 東京都港区新橋三丁目2-7 恭和ビル2F
TEL (03) 3502-4041 FAX (03) 3502-5416

『平成27年9月関東・東北豪雨』 災害支援レポート

9月10日、台風18号の低気圧の影響により、記録的な大雨が降りました。茨城県西部にある常総市中央部を流れる鬼怒川の堤

防が決壊し、大きな被害が出ました。

県青年会としては、県宗務所様のご援助、県内御寺院様のご協力をいただきながら、翌週の常総市ボランティア



松岳寺様の境内墓地を清掃する茨城曹青会の皆さん

センター開設とともに、一般のボランティアの方がたと一緒に現地で浸水した家屋の家具道具の運び出しや、泥の吹き出しなどのお手伝いをさせて頂いていただきました。また、同宗門の寺院も浸水の被害に遭われており、その中でも、本堂・建物・境内・墓所の全てが浸水の被害に遭われた第8教区松岳寺様におかれましては、青年会が中心となり、仏具等の運び出しや本堂・境内・墓所等の清掃を行っておりま

す。

災害発生から1か月以上が経過し、ボランティアに対するニーズも多様化してきています。まだまだ自宅には戻れず、不自由な生活を続けている方も大勢いらっしゃいます。



泥水の跡が残る松岳寺様本堂内東室中の床の間

その中で青年会として、常総市社会福祉協議会と連携し、行茶(傾聴)のボランティアも行っており、今後も一般ボランティア作業と並行しながら続けて参ります。

この度の災害において、全国曹洞宗青年会様をはじめ、各県青年会様、関係各位の皆様には多大なご支援をいただき、また現地での活動等にもご協力していただきま

す。今後ともご助言、ご協力をお願いいたします。

平成27年10月23日

茨城県曹洞宗青年会 九拝

全国から豪雨被災地へのボランティアが入り活動される中、曹洞宗の青年会単位でも、10月6日現在、長野県第二宗務所青年会、静岡県第一宗務所青年会、茨城県青年会、いずも曹洞宗青年会、長野県第一宗務所青年会、東三河曹洞宗青年会の皆様が茨城県常総市で、また曹洞宗福島県青年会の皆様、栃木県栃木市で活動されております。

(※全国曹洞宗青年会が活動を把握・ご連絡をいただいた青年会のみ記載。この他にもいくつかの青年会様が独自に活動を展開されております)

全国曹洞宗青年会からは、宮下災害復興支援部アドバイザーが常総市ボランティアセンターに入り活動の調整を行っております。また、9月30日から10月1日には安達会長以下、述べ8名が現地での活動に従事しました。

現地に赴かれる際は、最新の情報を随時チェックされ、事前の準備(地元でのボランティア保険加入、「災害派遣等従事車両証明書」の有無について等)を万全にされることをお勧めいたします。また、不明な点などございましたら、全国曹洞宗青年会災害復興支援部までお気軽にお問い合わせください。

全国曹洞宗青年会災害復興支援部
連絡メール

shien.zensousei@gmail.com

災害が起きた時
または災害が起きる前に、
若手僧侶に期待すること、
地域寺院が備えるべきこと



特集「防災、人とのつながり」 インタビュー 若林恭英老師

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会会長
長野県上田市 安楽寺御住職

——まず、シャンティ国際ボランティア会(以下、SVA)の国内災害に対する取り組みはどのようなものでしょうか。

御存知の通り、SVAの前身は「曹洞宗ボランティア会」です。カンボジアの難民支援に遡る創設以来、どちらかというと海外の困難な立場にある人たちへの支援、教育支援に重点を置いていました。SVAは来年で35周年を迎えますが、海外で培ってきたものがある中で、国内の自然災害、特に阪神淡路大震災以降、我々はどう対応すべきかと検討する中、国外も国内も、困難に直面する方がたの為にできる限りのことをしよう、傍観している訳にはいかなないという事で行動に移っていきました。

国内の災害では、現地での調査を行い、現地のニーズを発信します。今回の豪雨災害も、ボランティアセンターに入り、関係他団体との連携を模索しながら進めています。海外においても、先日ネパールの大地震がありました。先ずは現地調査をしました。現在は仮設の校舎とトイレの建設を、10月末を目途に100校建設しています。既に3〜4割はできています。

国内国外問わず、災害現場に先ずは直接赴き、段取りをする。ボランティアをする方がたの気持ちを活かすことを常に念頭に置いています。

——東日本大震災の支援状況も、4年半経過してだいぶ変わってきました。

現在、どの段階で活動を収束するか模索しているところです。大槌、陸前高田、大

船渡については、SVAは今年度を目途に撤収し、地元の組織がそれを引き継ぐ予定です。移動図書館活動も、これ以上続けることによって地元がその分野から手を引く意味がありません。

——移動図書館については着地点に近づいている印象を受けますが、地元の生活基盤、特に農業や漁業、高台移転など、地元の人々の生活に関わる部分は復興が遅れている印象があります。

気仙沼については地元でNPO法人を立ち上げ、地元の方々に機能を引き継ぐ形で(SVAの地元スタッフは引き続き新法人で活動)、コミュニティ活動も継承します。これから特に必要と思われる、子どもたちの「海に対する親しみ」。自然の中で親しんできたものが、漁業の後継者も足りなくなっている中、防波堤で海と子どもたちを切り離しているのか、どのように危険を回避するか。「浜わらす」(※1)というNPOを設立し、これらについて講習会を開いていきます。海に近づいてはいけない、という話だけではいけません。

——そのような活動の中で、仏教NGOネットワーク(以下、BNN)発刊の『寺院備災ガイドブック』(※2)に、SVAも災害現場で活動した団体の中として、監修に携わられています。

あの震災・津波から我々が何を学ぶべきかと考えた時に、寺院が凶らずも避難所・減災・支援活動の拠点になりました。この教訓を多くの方が共有していくということ

が、心構えという点において重要です。ワークショップ研修をすると、自分たちが何も出来ない、ということが良く分かります。多くの方が避難してきて、お寺はどのように対応できるか、それを事前に含んでおくに役に立ちます。BNNでは要望に応じて講師を派遣し、役割分担のシミュレーション研修を行っています。「多くの人たちがお寺に避難してきた。どうしますか?」いざという時になって「何とかなる」ではなく、予め体験します。体験しておくのは大事な事です。

——若い僧侶、地域寺院、各地の青年会・仏教会。色々な立場の中で、発災する前に私たちができる災害への色々な備えがあると思います。

技術的な講習は、消防署などで資格が取れます。私が常々思うのは、「お寺の存在価値を本来のものに戻す」ということ。お寺と世間と密着出来ているだろうか。お寺は一般の人にとって敷居が高いわけです。それをどれだけ低くしながら、地域と交流していけるか。若い内に色々な場面で考え行動に移すことが大切です。例えば自分の地域におけるネットワークを太くする。お寺に入ったからお寺の事だけやっておけばいいという考え方は、いざという時にお寺が地域の核になりえません。「備災」ということは、地域コミュニティとお寺が、どう関わっていくか、どれだけ太い絆、パイプを持っているかが試されます。試行錯誤しながら、自分の住んでいる地域のコミュニティにどれ

だけ溶け込んでいけるか。それが最大の備災だと思えます。その上に資格などがあれば更に有利です。特に副住職という立場は、時間的には余裕があると思えますので、地域との交流を増やしておくというのは非常に大事なことです。

——地域との交流という点では、自治体・地域(自主防災会など)、社会福祉協議会、消防、警察、消防団など各種団体との繋がりも大切です。私も地元消防団で、一回り上の世代や一回り下の世代と同じ活動をしていますが、技術的なことも含め、地域との繋がりが広がりました。

副住職という立場であれば、是非やるべきだと私は思います。私もかつて消防団活動を行いましたし、今でもその経験は財産になっています。地域との繋がりという点で、退団者のOB会にも参加しています。一生のお付き合いです。それだけでもコミュニティの核になります。お坊さんが地域の活動を一生懸命やっている、という点を見せることも、プラスのイメージになります。私が公民館の役員をやった時、ご年輩の方が「こんな(地域の)小役まで方丈様にやっていただいて、本当にありがたい」と言われたことがあります。そんな風に見てるんだ、と私も改めて思いました。

現在、安楽寺の末寺で檀家ゼロの小さなお寺があり、隣には神社があります。お寺と神社が隣接している場所は結構あります。隣の神社の宮司さんと協力してお地藏さんのお祭りを始め、今年で3回目になります。

住職と宮司が並んでいると、地域の方が「あ、お寺さんとお宮さんが並んでいる。これで良いんだ。神・仏でいいじゃないか」と考えることが物凄くエネルギーになります。神仏には本来、人々をまとめるエネルギーが備わっています。そういう交流を、心掛けて若い世代にやってほしいと願っています。

もう一つの例として、この地域には「札所巡り(※3)」があります。四国霊場の八十八仏を、元禄の時代にこの地に勧請しています。当時の21ヶ所の村それぞれに札所を設け、数体ずつの仏像を分けてお祀りしました。この安楽寺には8体の仏像があります。しかし明治を過ぎ、人々の記憶から忘れ去られていました。これを仏教会で復活させようとして活動してきました。各宗派に温度差はあるが、それぞれの住職が一般の方と一緒に

職と宮司が並んでいると、地域の方が「あ、お寺さんとお宮さんが並んでいる。これで良いんだ。神・仏でいいじゃないか」と考えることが物凄くエネルギーになります。神仏には本来、人々をまとめるエネルギーが備わっています。そういう交流を、心掛けて若い世代にやってほしいと願っています。

に地域を歩き札所を回り、お寺同士連携し、人々と話をする。これも「防災」のひとつの形だと私は思います。

お寺を真面目に勤めていくのは基本であり、それに安住するのではなく、もっと社会との接点を持ちながら、大変なこの時代に光を、希望を持ってもらえるようなものを示すのが本当の宗教家です。若い人たちが守りに入っていないはいけません。是非とも地域と一体となって、人と人との絆を大いに構築していただきたい。それもお寺と僧侶の大きな存在価値の一つです。

※1「浜わらす」

SVA気仙沼事務所の「つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼」で開催したイベントを引き継ぐ形で立ち上げられたNPO法人。子どもたちと自然や地元の達人(猟師、農業、林業関係者など)との交流を通じ、本来持っている「生きる力」を引き出す自然体験活動プログラムを企画運営。

※2「寺院備災ガイドブック」

災害に対する備えとして寺院が如何に備えるべきか、また避難者・地域・ボランティアを繋ぐ場としての「寺院」について、様々な角度から検証、提言している。SVAは「第3章 寺院の避難所運営マニュアル」を監修。

※3「札所巡り」

長野県上田市別所温泉と、その隣接地である塩田平一帯の寺院やお堂21ヶ所に分けてお祀りされている札所を巡る歩き遍路「健康・観光・信仰」をコンセプトに、札所の内3〜10ヶ所を無理せず歩き、僧侶とともに自然の中を散策しながら信仰を深める。



「郷を歩く」ことも防災の一環



[特別寄稿]
防災を身近に
 一般社団法人防災ガール
 文／事務局 中西須瑞化

私は「一般社団法人防災ガール」で活動をしています。「防災ガールって何だ?」と思われる方も多いかもしれませんが、先ずは少し説明を。

20代や30代の若者にとって、『防災』というものは何となくダサくて面白くないイメージのものが、難しそうで取り組み辛いイメージのものでした。年齢の高い方がたでも、「大事だとは思うけど…」という意識はありつつも、どうしても後回しになって遠ざかっていくようなものなのではないかと思えます。3・11の震災後、復興支援に従事していた田中(美咲)代表は、「次は自分たちかもしれない」という危機感を持ち、今遠ざかってしまっている「防災」を、若者世代を中心に広めるための活動を開始しました。今、「オシヤレでわかりやすく、面白く、日常の中で自然と、当たり前前に防災が果たされている世の中を実現しよう」と、全国各地の若い女の子を中心に共感者やメンバーが増えています。具体的には、見た目も可愛らしく普段か

ら持ち歩ける防災グッズSABOIの開発や、避難経路も避難場所も決まっていない「自分の頭で考えて動く」街歩き型の避難訓練プログラムの開発、行政と連携して地域の防災コミュニティを立ち上げる等、従来の『防災』をより身近なものに変えていくための様々な取り組みを行っています。

防災と仏教には近い点があるのではないかと感じることがあります。それは、「先ずは自らで自らを生きること」を念頭に置いていてということ。「誰かを救うには先ず自分を救わなければ」とは俗世間でもよく耳にするような言い回しですが、防災においても、その考え方は通じています。

防災には、「自助」「共助」「公助」という概念があります。その中でも、私たち防災ガールが活動の中で伝えていきたいのは「自助」の大切さとその意味です。一見、「自分を助けるだなんて自己愛的だ、他者を助けてこそだろう」と思われるかもしれませんが、しかし、自分で自分の身を守るようになるということは、己の足で立ち、生きていくということなのです。自助の意識というものは、自分の生命に責任を持ち、自然の脅威の中で慎ましくも真摯に生きていくという態度の表れなのだ、私は思います。

田中代表がよく言う言葉に、「100%×3人よりも、3%×100人の世の中に」というものがあります。防災というとはやはり消防等の専門的な職業の方や研究者の方も多いいのですが、そうしたプロフェッショナルが3人で知恵を絞り合い、そこだけに皆が依

存して策を講じてもらう世の中よりも、たとえ3%でも自助の意識を持った人が100人いる世の中の方が、きっと自助も共助も成り立つようになるというのです。残念ながら、日本は災害大国であるにも関わらず、今は完全に前者の状態にあると思います。人は何れ死ぬ生き物ですから、命にそこまで執着はしなくとも…とも思いますが、しかし自分の生命に対する責任を放棄して、「誰かが守ってくれる」と透明な存在に依存して生きていくのでは、死ぬに死にきれないだろうとも思うのです。さらに言わせていただくならば、そういった無責任・無覚悟な人間が居ること自体、共助を阻む大きな要因ともなるのだと考えています。

防災ガールでは、以下の5つのアクションを掲げています。

1. リラックスしよう
2. 「もしも」の状況を考えておこう
3. 健康管理をしつかりしよう
4. 声をかけあおう
5. 情報を理解し、判断しよう

これはどんな人にもできる、今この瞬間からできる自助のためのアクションです。こうした日々の覚悟こそ、生きていく上での自分の足を支える導しるべとなるのではないかと思っています。

お寺という場所は、本来よるべき人々が頼り集うための場所でした。お寺という場所では誰もが等しくただの人であり、一人ひとりが己と向き合い生きていくことに対峙します。現代では観光地や行事ごとの

場といった要素の方が強かったり、そこそ寺ガールが参拝に行くパワースポットの要素が強いかもしれませんが、個人的にはそういった風潮は勿体ないなあとも思うのです。普段から、日常の中の身近な場所としてそこで言葉を交え、己の足が今己を支えているかどうかを確認する場であってほしい。有事の際、広い敷地のあるお寺には人が集まることも多いでしょう。例えばその時、地域住民の交流があるのと無いのとでは、避難所の運営にも雲泥の差が出ることと思います。有事の際でも平時でも、そこに居るのはいつだって自分と他者です。言葉の届く環境づくり、想いの伝わる関係づくりを日頃から丁寧に織り成すことも、大切な防災のアクションだといえるのです。



防災ガールホームページ <http://bosai-girl.com/>

中国管区理事 湯淺英利



鳥取県曹洞宗青年会の湯浅英利と申します。中国管内では、輪番で管区理事として参加させていただき取り決めの中で、今期、鳥取県青年会が中国管区理事を務めさせていただきます。重要な役目である管区理事をお受けできる器ではございませんが、全曹青の活動に協賛し、私ども地方寺院との間に情報と人の交流の一助となるべく、努力してまいります。青年会は、一個人の力では成し得ない規模の活動内容で、青年僧侶が意識向上を目指す場でも感じております。全曹青会員の皆様と執行部の皆様とともに、充実した活動になるように精進努力したく思っております。どうぞよろしくお願いたします。

中国

近畿管区理事 岸哲生



平成26年度より近畿管区理事を務めさせていただきます兵庫県第二宗務所青年会の岸哲生と申します。

私と全曹青との関わりは、平成17年の30周年記念事業で近畿管区大会の実行委員を務めさせて頂いたのが初めてで、昨年40周年の時にも理事として関わらせて頂きました。節目節目で全曹青と関わりを持ってご縁に感謝しております。青年会員としてはもう退会していてもおかしくない年齢なのですが、今期の会長、安達瑞樹師は同じ兵庫第二青年会より参加しております。安達会長の任期中は全力で応援したいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

最後になりましたが、昨年8月16日丹波市豪雨災害におきまして、全国より多くのご支援をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

近畿

管区理事ごあいさつ

九州管区理事 須川憲司



九州管区理事を務めさせていただきます、九州曹洞宗青年会17期会長・長崎曹青の須川憲司です。九州曹洞宗青年会は代々受け継いできたスローガン『九州はひとつ!』をそのまま受け継ぎ各県の相互理解して懇親をますます深め『九州はひとつ!』を体現していきたいと思っております。また、もうひとつのスローガン『社会と禅をつなぐために』を掲げ、会員各位と社会研修を通じ、檀信徒との話題づくり、こども禅の集いなどの初開催へのきっかけづくりを行います。猪突のきらいのある私ではありますが、会員各位に手綱を締めてもらいつつ全力で邁進する所存です。どうぞよろしくおねがいたします。

九州

四国管区理事 里野和敬



この度、四国管区理事に就任しました里野和敬です。『笑顔の君と おなじ空を見上げて』第21期スローガンでもありますように、四国の空と全国各地の空は繋がっております。この挨拶文を読んでいただいているあなたの空とも繋がっております。その空の下、四国の青年僧と全国の各管区の青年僧がこの全曹青で繋がり笑顔でともに進んで行く、そのような第21期になるよう精一杯努めたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

四国

守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



<http://www.caname-jisha.jp>

■ 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300
■ 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882
■ 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541



こども自然ふれあい広場 in あだたら

平成27年8月3日から5日の2泊3日の日程で曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室（以下、復興支援室分室）主催、チャイルドラインふくしま共催による「こども自然ふれあい広場inあだたら」が福島県安達郡大玉村の「フォレストパークあだたら」で開催されました。

曹洞宗青年会による「こども自然ふれあい広場」は震災が発生した初年度の2011年から今年で5年目となりますが、復興支援室分室主催による開催は初めてとなります。これまでの成果と課題を踏まえて、新たに良い子どもの身心に向けたプログラムの再構築を図り、チャイルドラインふくしま（18歳までのこどもの電話窓口）の協力を得ながら企画されたものです。全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）も企画から携わり、引率を始め現地での活動に7名が参加しました。

期間中は、岩手・宮城・福島の子どもたち31名が参加し、被災三県の子どもたちの交流を目的とした異文化交流や自然観察、川遊び、火おこし、野外炊飯、キャンプファイヤーが実施されました。復興支援室分室、チャイルドラインふくしま、宗務庁、全曹青及び地元曹洞宗福島県青年会のスタッフにスクीलカウンセラー、看護師を加えて、主に沿岸部で被災をして何らかの家族構成が変わったなど、心のケアが必要な子どもたちにとどのような対応・配慮が必要なのかを考えながらプログラムが進められました。

今回のキャンプでは、子どもの権利条約に依拠した「エンパワーメント（湧活）」を活動

の理念に置きながら、子どもたちが、自らの意志で選択、決定、行動できるように配慮しました。プログラムの中に選択肢を設け、自ら選んだプログラムを体験し、学び楽しみました。

食事の準備は火おこしから行いました。限られた炊き付け用の道具の中から選択し、火を起こします。スタッフのサポートを得ながら、ゆつくりと時間をかけて進めていきました。川遊びでは、数多くの遊び道具と場の中で子どもたち自身が選択し、自らの意志で交流を深めました。スタッフが安全に配慮しながら、子どもたちの交流を見守ります。

子どもは、自身の行動や言葉など何らかの訴えに誠実に応答してくれる大人や社会がないと安心して成長できないと言われていきます。参加したスタッフ全員は、一つひとつできるところから、子どもと丁寧に向き合い、目を観て心を観て対応していく中で、「自分たちは子どもたちにとって心の居場所と成り得ているか」「子どもに対して自由と安心と自信を保証する大人、信頼される大人と成り得ているか」と自らに問い掛けながらの活動でした。

大人の考えを押し付けず、子どもの主体性を尊重する中で見受けられた子どもらしい笑顔。それは、参加スタッフにとってもかけがえない研修の場にもなったのと同時に、私たち大人が子どもたちに育てられる大切な時間ともなった証でした。

今後の子どもたちのチャレンジ・復興のために。全曹青は、子どもたちの一時的な保養



だけに止まらず、その心に向けた支援のあり方を復興支援室分室や加盟団体、関係各所とともに考え続けていきたいと考えています。

文／全国曹洞宗青年会事務局次長 内藤宏信



第4回子ども自然ふれあい広場 in 高知

7月27日から30日までの4日間、高知県一の町で、「第4回子ども自然ふれあい広場 in 高知」が、四国管区教化センター主催の『子ども禅キャンプ』と併催され、福島の子どもたち22名、四国の子どもたち40名が参加しました。

1日目、福島駅に集合。交通機関を乗り継ぎ、高知龍馬空港に到着しました。空港見学をして、夕食には、高知名物の鯉のたたきを食べました。かんぼの宿に到着後は、暑い1日の疲れをみんなでお風呂に流し、各部屋に分かれて就寝しました。

2日目は、午前中に高知アイス工場を見学。初めての子どもも多く、興味津々で見えていきました。中でも冷凍庫に入った時が一番盛り上がり上がっていました。最後には、アイスを作る舞っていただき、みんなで美味しくいただきました。午後からは四国の子どもたちと合流。開会式、オリエンテーションを行いました。その後、JALの方と一緒に、よく飛ぶ紙飛行機の作り方を教わりながら、紙飛行機を作り実際に飛ばしました。どれだけ飛べるかを競争したりしながら、いろんな飛行機を作っていました。そして、班別に分かれて自己紹介など行い、坐禅体験をしました。

3日目は、朝6時に起きて、坐禅・朝のおつとめ、布教師のお話、朝食、掃除を行いました。

午前中には、土佐和紙の紙すき体験。様々な植物を使って、はがきを作りました。時間を忘れるぐらい没頭していました。ま

た、写仏体験では、みんなそれぞれのお地藏様を描いていました。昼食には、バーベキュー。その後は、仁淀川での川遊び。川の水が冷たかったですが、カヌーに乗ったり、泳いだり、ボートから飛び込んだりと、時間いっぱい遊びました。そして、徳田耕太郎選手のフリースタイルフットボールの実演を見ました。班ごとに分かれ、徳田選手からの課題に挑戦しました。お互いに励まし合いながら、何度も取り組んでいて、絆が深まったのが実感できました。夕食の後には、ビンゴゲーム。1日の疲れも感じさせないぐらい、みんな盛り上がりました。最終日も、坐禅、朝のおつとめから始まりました。閉会式を終え、一緒に活動して

きた班での写真撮影。その後、福島の子どもたちは、四国の子どもたちに見送られ、帰路につきました。

子どもたちは最後の最後までみんな元気いっぱいでした。スタッフ一同、飛行機が見えなくなるまで手を振っていました。過密日程でしたが、スタッフが元気をもらいうぐらい、何事にもみんなで楽しんでくれました。一緒に過ごしたこの4日間、様々な交流もあり、かけがえのないものとなりました。

当事業にご賛助いただいた各御寺院、各団体、個人ほか多くの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

文／四国地区曹洞宗青年会一同





第2回 味来食堂 精進料理の基礎から 盛りつけまでを学ぶ

平成27年7月6日、第2回味来食堂が開催されました。会場は曹洞宗檀信徒会館5階。この度、料理教室ができるようにと調理場を改修されたとのこと。私もどんな雰囲気の意味来食堂になるのかと、わくわくしながら開始を待ちました。

今回のメニューは、夏野菜のごまソース和え、ジャガイモのガレット酢味噌のせ、茄子の翡翠麺、胡麻豆腐、湯葉のすまし汁です。



講師は、前回に引き続き、教化法式委員会の河口智賢委員長、山崎元道委員、松本好寛特別講師（静岡県第一宗務所青年会）の3名です。

まず最初にパネルを使用して、精進料理の基礎知識を学びました。その後いよいよ実際の調理の時間です。講師陣の懇切丁寧な説明に、参加者の方がたは必死にメモをとったり、撮影したり、見えにくいときには身を乗り出すなど、大変熱心な様子でした。講師陣からは、時には修行道場でのエピソードや調理のワンポイントアドバイスなどがあり、取材を行った私自身も参考になりました。

出来上がった料理は、全員で協力しながら器に盛り付けました。今回は何と言っても、お膳に盛りつけた点が今までの味来食堂にはない雰囲気で大変印象的でした。きれいに盛りられたお膳の前に、全員で五観の偈をお唱えし、いただきました。少々緊張感のある食事となりましたが、食事中も会話が弾み、参加者の方がたも貴重な良い学びの時間ではなかったかと感じました。

少々終了時間が伸びてしまいましたが、食後には参加者の方がたも率先して器の後片付けをしていただきました。片付けにまで丁寧な心を配る、禅の食の精神が伝わっている様子が温かくなりました。

文／広報副委員長 西古孝志





平成27年9月14日から15日の2日間に、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）第4回執行部会、第1回次期会長選考会、第3回理事会、電話相談員養成研修会が開催されました。

執行部会

9月14日午後1時から曹洞宗檀信徒会館4階芙蓉の間、及び15日午前8時から同会館3階菊の間で、第4回執行部会が行われました。15日は1時間の会議の後、9時30分から全曹青と忌憚のない意見交換を行いましたと釜田隆文宗務総長老師と神野哲州人事部長老師が菊の間に来られ、ご多忙の中1時間半に渡り、執行部の活動紹介に対する意見を述べられました。

釜田宗務総長からは「皆さんの責務は大きい。若い力を大切にし、フルに発揮していただきたい。我々は皆さんの活動しやすい環境を提供したい」、神野人事部長からは「現場の声を我々に届けていただきたい」とのご意見を頂戴いたしました。

次期会長選考委員会

9月15日正午から曹洞宗檀信徒会館6階パンセで、第1回次期会長選考委員会が行われました。

里野和敬四国管区理事を委員長に、活発な意見交換が行われました。

理事会

9月15日午後1時30分から曹洞宗檀信徒会館3階菊の間で、第3回理事会が開催されました。

冒頭、中村見自教化部長老師からご挨拶があり、教化部国際課が取り組まれている海外布教事業、来年1月の北米参禅ツアーについてのご説明とともに、味来食堂事業をはじめとした全曹青の教化事業、インターネットを通じた情報発信についてご意見をいただきました。

その後、各委員会活動報告、上程議案、今後の各行事、東日本豪雨災害の被害状況並びにボランティア受け入れ状況について審議をいただきました。

電話相談員養成研修会

9月15日午前9時から曹洞宗檀信徒会館4階芙蓉の間で、電話相談員養成研修会が行われました。神奈川県梅宗寺住職の館盛寛行師が講師を務め、9人の受講者が参加しました。

午前中は「観世ふおん」電話相談事業が設立された経緯や運営方法、傾聴の基礎となる心構えや注意点を学び、午後からは、受

講者が3人一組となつてのロールプレイを通して、傾聴を体感しながら学び、午後4時に研修会は終了しました。

館盛師は、「電話相談の窓口が開いていることが何よりも大切です。悩んでいる方は多くは、誰に相談して良いのかわからない。その中で様々な相談窓口を一生懸命に探しながら、日々を過ごされています。そういった方がたの為に、1つでも多くの相談窓口が開いていて、相談したい時に相談できる窓口がある、ということが重要です。窓口が開いていると思っただけで、『今日は電話しないけど、電話しても良いんだよな』と時間を過ごして、『また明日も生きてみよう』と力になります。実際の電話相談に至らなくても、悩んでいる人にとって大きな安心感となります。」と相談受理件数や不在着信件数の多い少ないよりも、先ず電話相談の窓口が開設されていることの大切さを話されました。



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

| | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ◆新潟県第4 | 195 東門寺 様 | ◆岩手県 | 105 東昌寺 様 | 17 補陀寺 様 |
| 53 英林寺 様 | 226 常隆寺 様 | 53 廣全寺 様 | 166 高德寺 様 | 79 東林寺 様 |
| 235 龍門寺 様 | 246 長徳寺 様 | 122 石洞寺 様 | 176 海昌寺 様 | 165 能持院 様 |
| 246 福源寺 様 | 370 秀長寺 様 | 187 高建寺 様 | 189 乗照寺 様 | 212 靈仙寺 様 |
| 809 靈道寺 様 | 373 泰雲寺 様 | 192 常堅寺 様 | ◆山形県第1 | 216 向川寺 様 |
| 817 日照寺 様 | 374 常德寺 様 | 196 建高寺 様 | 138 石川寺 様 | 261 見性寺 様 |
| ◆福島県 | 399 法界寺 様 | 226 長林寺 様 | 208 普門寺 様 | 265 倫勝寺 様 |
| 14 円通寺 様 | 405 勝方寺 様 | 247 正福寺 様 | ◆山形県第2 | 311 全應寺 様 |
| 46 龍傳寺 様 | 461 正法寺 様 | 249 光明寺 様 | 316 金鐘寺 様 | 321 鏡得寺 様 |
| 69 光台寺 様 | ◆宮城県 | 252 柳玄寺 様 | 322 洞松寺 様 | 323 恩徳寺 様 |
| 101 成林寺 様 | 10 瀧澤寺 様 | 276 慈眼寺 様 | 346 長福寺 様 | ◆北海道第1 |
| 103 小国寺 様 | 16 林香院 様 | 288 長福寺 様 | ◆山形県第3 | 34 諦玄寺 様 |
| 110 龍徳寺 様 | 76 清涼寺 様 | 289 宝積寺 様 | 468 宗傳寺 様 | 99 全久寺 様 |
| 111 普光寺 様 | 212 祥雲寺 様 | 290 長泉寺 様 | 740 長應寺 様 | 462 昭宥寺 様 |
| 112 耕雲寺 様 | 263 西林寺 様 | ◆青森県 | ◆秋田県 | ◆北海道第2 |
| 131 天性寺 様 | 271 願成寺 様 | 20 盛雲院 様 | 1 鱗勝院 様 | 355 光聖寺 様 |
| 139 徳成寺 様 | 296 龍洞院 様 | 22 恵林寺 様 | | 358 禪照寺 様 |
| 168 清光寺 様 | 371 頼光寺 様 | 74 浮木寺 様 | | |
| 173 長慶寺 様 | | 100 澄月寺 様 | | |

[ボランティア基金感謝録]

| | | | |
|--------------|------------|----------------|-----------|
| 東京都 青松寺 様 | 静岡県 耕月寺 様 | 兵庫県 三宝院 様 | 宮城県 清涼寺 様 |
| 東京都 天徳院 様 | 静岡県 永昌寺 様 | 岡山県 円通寺 様 | 岩手県 常堅寺 様 |
| 東京都 観栖寺 様 | 静岡県 仙林寺 様 | 山口県 久屋寺 様 | 岩手県 青山寺 様 |
| 東京都 岩井院 様 | 静岡県 礼雲寺 様 | 島根県 常光寺 様 | 岩手県 長福寺 様 |
| 神奈川県 傳心寺 様 | 愛知県 宝珠院 様 | 島根県 松源寺 様 | 岩手県 長泉寺 様 |
| 神奈川県 東照寺 様 | 愛知県 寶珠院 様 | 愛媛県 興雲寺 様 | 岩手県 正福寺 様 |
| 神奈川県 長楽寺別院 様 | 愛知県 明照寺 様 | 愛媛県 清盛寺 様 | 青森県 海昌寺 様 |
| 埼玉県 廣徳院 様 | 愛知県 成福寺 様 | 佐賀県 小島宗彦 様 | 青森県 盛雲院 様 |
| 埼玉県 吉祥院 様 | 愛知県 薬師寺 様 | 鹿児島県 絃昭寺 様 | 青森県 恵林寺 様 |
| 群馬県 龍海院 様 | 愛知県 觀昌寺 様 | 長野県 苔翁寺 様 | 青森県 浮木寺 様 |
| 群馬県 長桂寺 様 | 愛知県 報恩寺 様 | 長野県 徳應院 様 | 青森県 澄月寺 様 |
| 群馬県 雙松寺 様 | 愛知県 金清寺 様 | 福井県 長泉寺 様 | 青森県 東昌寺 様 |
| 群馬県 龍傳寺 様 | 岐阜県 戸田和雄 様 | 新潟県 曹源寺 様 | 青森県 乗照寺 様 |
| 群馬県 春昌寺 様 | 岐阜県 勝林寺 様 | 新潟県 福源寺 様 | 山形県 宗傳寺 様 |
| 茨城県 龍心寺 様 | 三重県 安心寺 様 | 新潟県 法音寺 様 | 山形県 金鐘寺 様 |
| 茨城県 龍泉院 様 | 滋賀県 永寿院 様 | 新潟県 佐藤誠之 様 | 山形県 長應寺 様 |
| 千葉県 満蔵寺 様 | 京都府 神応寺 様 | 福島県 第15教区寺族会 様 | 山形県 長福寺 様 |
| 千葉県 海福寺 様 | 京都府 善光寺 様 | 福島県 正法寺 様 | 山形県 恩徳寺 様 |
| 千葉県 最勝福寺 様 | 京都府 米澤昭博 様 | 福島県 秀長寺 様 | 秋田県 補陀寺 様 |
| 静岡県 元長寺 様 | 京都府 岩屋寺 様 | 福島県 徳成寺 様 | 秋田県 靈仙寺 様 |
| 静岡県 金剛寺 様 | 大阪府 南昌寺 様 | 福島県 天性寺 様 | 秋田県 東林寺 様 |
| 静岡県 玉泉寺 様 | 大阪府 法蔵寺 様 | 福島県 成林寺 様 | 秋田県 見性寺 様 |
| 静岡県 秀源寺 様 | 兵庫県 岡本寺 様 | 福島県 東門寺 様 | 北海道 禪照寺 様 |
| 静岡県 正泉寺 様 | 兵庫県 向榮寺 様 | 宮城県 瀧澤寺 様 | 北海道 諦玄寺 様 |
| 静岡県 久心院 様 | 兵庫県 宗福寺 様 | 宮城県 龍洞院 様 | |

[ネパール地震支援金]

| | | |
|-----------------|----------------|-----------|
| 東京都 功雲院 様 | 宮城県 喜松院 様 | 秋田県 鱗勝院 様 |
| 群馬県 福巖寺 様 | 岩手県 藤春院梅花講一同 様 | 北海道 浜量寺 様 |
| 島根県 いずも曹洞宗青年会 様 | | |

[お詫び] 『SOUSEI』170号の当名簿取扱い期間が「平成27年4月1日～6月30日」と記されておりましたが、正しくは「平成27年4月1日～6月16日」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

[賛助費浄納御芳名簿]

平成27年6月17日～9月30日取扱い分

◆東京都

81 長光寺 様
86 天徳院 様
90 梅岩寺 様
101 心月院 様
105 鳳林寺 様
106 観泉寺 様
168 養昌寺 様
177 清巖寺 様
278 高乘寺 様
286 常林寺 様
294 観栖寺 様
345 正法院 様
362 岩井院 様
406 全昌院 様

◆神奈川県第1

324 玉宝寺 様

◆神奈川県第2

21 東照寺 様
97 東福寺 様
131 乗福寺 様
394 長尾寺 様

◆埼玉県第1

111 東泉寺 様
187 清法寺 様
190 廣徳院 様
392 報恩寺 様
416 昌福寺 様
441 金剛寺 様

◆埼玉県第2

227 東陽寺 様
237 吉祥院 様
254 見光寺 様
256 豊泉寺 様
331 曹源寺 様

◆群馬県

3 龍海院 様
55 長桂寺 様
89 龍昌寺 様
99 龍傳寺 様
144 雙松寺 様
194 善宗寺 様
244 春昌寺 様
311 泉通寺 様
348 徳昌寺 様

◆栃木県

2 桂林寺 様
29 円明寺 様
52 傑岑寺 様
66 芳全寺 様
67 海湖寺 様
80 長安寺 様
105 大雄寺 様
167 興福寺 様

◆茨城県

1 祇園寺 様

13 龍泉院 様
23 源慶院 様
41 大雄院 様
57 常安寺 様
145 性山寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
35 海福寺 様
74 廣濟寺 様
95 寶應寺 様
159 宝聚院 様
198 太高寺 様
243 最勝福寺 様
271 永明寺 様
357 永福寺 様

◆山梨県

555 自元寺 様

◆静岡県第1

7 元長寺 様
50 盤龍寺 様
64 南叟寺 様
95 久應院 様
109 玉泉寺 様
165 光明寺 様
180 秀源寺 様
391 十輪寺 様
463 栄昌寺 様
464 正泉寺 様
495 普門院 様
528 盤石寺 様

◆静岡県第2

228 耕月寺 様
329 永昌寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県第3

608 養勝寺 様
870 窓泉寺 様
1228 栄林寺 様

◆静岡県第4

1095 天林寺 様
1105 仙林寺 様
1143 金剛寺 様
1177 礼雲寺 様

◆静岡県

創文社印刷(株) 様

◆愛知県第1

10 安用寺 様
15 大光院 様
101 成福寺 様
120 宝珠院 様
182 観昌寺 様

249 安祥寺 様
287 向陽寺 様
293 康勝寺 様
313 長松寺 様
354 広濟寺 様
607 林宗寺 様
635 永澤寺 様
1098 薬師寺 様
1119 松月寺 様

◆愛知県第2

684 花井寺 様
972 桂昌院 様

◆愛知県第3

428 寶珠院 様
431 報恩寺 様

◆岐阜県

60 龍雲寺 様
189 久昌寺 様
192 玄昌寺 様
219 勝林寺 様
240 林陽寺 様

◆三重県第1

24 一心院 様
33 宗徳寺 様
59 長楽寺(別院) 様
83 涼泉寺 様
114 海禅寺 様
128 妙泉寺 様
203 等観寺 様
240 安心寺 様
246 宝泉院 様
269 大蓮寺 様

◆三重県第2

371 光明寺 様

◆滋賀

143 永壽院 様
164 正傳寺 様

◆京都府

20 地藏院 様
26 岩屋寺 様
46 榮春寺 様
67 苗秀寺 様
79 神應寺 様
236 善光寺 様
334 海蔵寺 様
374 等楽寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
56 南昌寺 様
78 桂林寺 様
109 法蔵寺 様
118 薬師寺 様

◆兵庫県第1

9 三宝院 様

287 向榮寺 様
370 明善寺 様

◆兵庫県第2

117 法円寺 様
173 瑞雲寺 様
202 宗福寺 様
221 永源寺 様
270 臨川寺 様

◆岡山県

1 円通寺 様
3 長川寺 様

◆広島県

33 勝運寺 様
46 雙照院 様
95 泉龍寺 様
115 醫光寺 様
135 鳳林寺 様
158 西福寺 様
175 雲龍寺 様
177 功德寺 様

◆山口県

25 弘濟寺 様
145 久屋寺 様
229 妙栄寺 様

◆鳥取県

1 興雲寺 様
17 普含寺 様

◆島根県第1

305 海雲寺 様
315 永明寺 様

◆島根県第2

1 松源寺 様
2 永昌寺 様
5 地福寺 様
16 洞光寺 様
50 妙岩寺 様
63 龍覚寺 様
93 法恩寺 様
119 常光寺 様
121 法海寺 様
140 法蔵寺 様
159 源入寺 様
169 長安寺 様
187 養善寺 様

◆愛媛県

32 清盛寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様

◆福岡県

15 龍国寺 様
28 桂木寺 様
77 太養院 様
158 報恩寺 様

◆大分県

76 福巖寺 様

◆長崎県第1

8 円福寺 様
33 妙本寺 様
78 宝泉寺 様
144 護国寺 様

◆佐賀県

150 元光寺 様
161 長得寺 様
167 恵日寺 様

◆熊本県第1

60 含蔵寺護持会 様

◆熊本県第2

78 地藏院 様
122 国照寺 様

◆宮崎県

54 善栖寺 様

◆鹿児島県

14 絃昭寺 様

◆長野県第1

38 耕雲庵 様
57 長秀院 様
65 柳原寺 様
66 宝蔵院 様
71 苔翁寺 様
99 天照寺 様
147 徳應院 様
580 観音庵 様

◆長野県第2

375 龍雲寺 様
386 西福寺 様
400 長久寺 様
441 雲龍寺 様

◆福井県

232 長泉寺 様
272 洞善寺 様
291 福聚寺 様

◆石川県

133 慈眼庵 様

◆新潟県第1

354 法音寺 様
358 円光寺 様
389 雲居寺 様
393 曹源寺 様
475 天昌寺 様
500 観泉院 様

◆新潟県第3

521 松泉寺 様



今年4月25日、ネパール中西部で発生したマグニチュード7.8の大地震とその余震は、周知の通り、ネパール及びその周辺国に甚大な被害をもたらしました。ネパールにおける死者は6月9日の時点で8,773人のほり、被災者は国民全体の30%、もしくは3人に1人とも言われています。また、文化遺産として世界遺産に登録されているカトマンズを中心とした仏教寺院の大半が倒壊・損壊等の被害を受けました。その状況において先ずは、全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)への、ネパール地震支援協力をいただいております。宗門諸老師の皆様方、各加盟団体、会員諸師の皆様方に対しまして、厚く御礼を申し上げる次第です。

本会は現在、全日本仏教青年会(以下、全日仏青)の国際委員会を担当しています。この全日仏青は、世界最大の仏教青年会である世界仏教徒青年連盟(以下、WFBY)の唯一の日本センターを担っており、その関係で全曹青の執行部並びに国際委員会は、このWFBYのネットワークに直接参加しています。

このネパール地震の支援活動は、4月25日の震災直後より開始された、各国に広がるWFBY加盟団体で形成されるメーリングリストを利用した情報交換からはじまりました。



全曹青ネパール地震 災害支援活動報告

始しました。この活動は現在も継続しています。

全曹青執行部より村山博雅顧問、並びに国際委員会より松岡広也国際顧問は、東海林全日仏青理事長(全国浄土宗青年会)とともに6月25日〜29日、バンコクで行われた大々的なネパール地震災害支援チャリティ事業に日本僧侶の代表として協力参加した後、第1回目の公式な支援団としてネパールへ渡り、ネパール仏教青年会への慰問と、同青年会が現地で行っている個人に対する金銭的支援事業や、炊き出し活動に参加させていただきました。またカトマンズ近郊にある甚大な被害を受けた地域を、慰問・視察させていただき、同じく炊き出しに参加いたしました。

カトマンズに本部を置くWFBYセンターであるネパール仏教青年会(YMBA)とは連絡が取れず、WFBY本部のあるタイを中心に、タイに滞在中だったネパール仏教青年会の役員、ネパール近隣国であるインド、バングラデシュ、スリランカのWFBYセンターよりの情報収集から、ネパールの被害状況を把握し、救援の方針を固めました。

WFBYは27日、やっとネパール仏教青年会より直接の情報、並びに要望を手に入れた、28日、29日バンコクで緊急会議と物資の準備を行った後、29日午後、多くの支援物資とともにチャーター機にてカトマンズに向けて出発しました。30日より、ネパールのWFBYセンターを窓口、支援物資を直接一般の人々に引き渡ししながら、現地コミュニティと協働した炊き出し活動を開

さて、WFBYは6月より、ネパールに対する支援活動計画として「World Buddhist Kitchen Project(WBKプロジェクト)」を立ち上げ、現在もその計画に従って活動しています。この支援計画は、何よりも炊き出しが必要不可欠である現地の状況と、現地政府の一般市民に対する支援体制の脆弱さも念頭に置き、平時より現地の各地域コミュニティの核を担う寺院の存在に着目した総合的支援計画です。ネパール現地の各寺院と直接つながり、その登録された代表者である住職や役員らの責任のもと、各地域で被災された一般の方がたに確実に活きる支援を展開するものです。以下にWFBY事務総長からの発信文を抜粋・転載します。

ネパール地震災害支援活動

World Buddhist Kitchen Project(WBKプロジェクト) 趣意書(抜粋)

世界仏教徒連盟(WFB)と世界仏教徒青年連盟(WFBY)は、即座にそれぞれのネパール地域センターである仏教会Dhammodayasabha並びに仏教青年会YMBAと協働して救援活動に入りました。家屋の全壊等により家に住めなくなった仮設避難所の方がたに、ブリキの屋根とテントを寄付するとともに、地震発生5日後の4月30日よりネパール4地域Patan, Trisuli, Tading, Banepaの寺院に、炊き出し活動拠点としてワールド・ブディスト・キッチン(WBK)を設置しました。炊き出し活動は現在も継続中です。

今こそ、世界中の仏教会から、分け隔てない救いの手を呼びかけるときです。WFBとWFBYの執行部は、ネパール支援を拡大するためワールド・ブディスト・キッチン・ファンド(WBK基金)の設立を承認し、元WFBY会長アヌルット・ボンパニジ氏を、「ネパール地震災害支援活動計画・World Buddhist Kitchen Project(WBKプロジェクト)」責任者に任命しました。

WBKプロジェクトの活動内容は以下の通りです。

1.WBK in Nepal:今後1ヶ月炊き出し活動を継続した後、終了時期を再審議する。(必要義援金1食1ドル×1日2食×400名×30日=24,000ドル)(現在継続中)

2.WBK for Nepal:6月26日、現地炊き出し活動のための資金調達イベントとして「WBKフードフェア」をバンコク・Emquattierショッピングモールにて開催する。(現在2回目を検討中)

3.Mahasanghadana(寺院支援):7月12日、ネパールにおける1日イベント(寄付式典)を開催し、100の仏教寺院に各々1,000ドルと、12の村々に各々10のブリキ製ドームシェルター(150ドル)を、食料と薬を入れた救命バッグとともに寄贈する。(現在2回目を検討中・必要義援金約120,000ドル)

4. ボランティア活動:医療サービス、子供達の保護、保養キャンプ等

皆様方のご協力が必要です。ネパールへの救援は皆様方それぞれの団体の募金から始められます。そして、WBK基金へのご寄付を何卒宜しく願います。皆様方の積極的なお返事をお待ち申し上げております。仏法と共に。

デンボン・スワナチャイロ

世界仏教徒青年連盟(WFBY) 事務総長

WBKプロジェクト・コーディネーター

この支援計画を受け、7月11日～15日には全日仏青理事長が2回目の公式支援団として現地に渡り、炊き出しや各地の慰問、視察に参加するとともに、これら支援活動に対する義援金として、全曹青をはじめ各加盟団体会員より集められた121万円と7,000ドル(約89万円)の計約210万円を、WBKプロジェクトを推進するWFBY執行部とWFBYセンターであるネパール仏教青年会(YMBA)を通じ、直接手渡しして参りました。

最後になりますが、おこがましくも、私たち日本の青年僧侶が現地に行かせていただくということが、直接大きな支援になると思っております。しかし、被災された家族を失われた現地の方がたが、合掌し笑顔で迎えてくれたその姿と、私たちにわかるがわる挨拶に来てくれた子供達の微笑みが、私たちの存在が無意味ではなく、必ずまた復興にはほど遠いネパールの元氣と力につながっていくと感じさせてくれました。

第3回目となる次回の公式な支援団の派遣は、現地との調整の結果、11月19日～21日となりました。現在団員を募集し、慰問、炊き出し参加とともに、再び義援金を直接お届けする予定です。

宗門諸老師の皆様方、並びに会員諸師の皆様方におかれましては、今後とも何卒深いご理解と、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。伏してお願ひ申し上げまして、ネパール支援活動に関する現時点での報告とさせていただきます。

文／全国曹洞宗青年会顧問 村山博雅

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

 株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

洗える高級新素材専門
全国御寺院様専門、御自坊出張販売
スペシャルオーダーメイド システムメーカー

御誂 法衣・袈裟・白衣・作務衣・頭陀袋 専門処
創業 60余年 (株)坂口衣芸工房

〒501-6236 岐阜県羽島市江吉良町1115番地
Tel 058-392-3121 Fax 058-392-5589
http://www.s-samue.com E-mail info@s-samue.com
多少にかかわらず社員一同お待ちしております

face of 全曹青



岡島典文
委員長

頒布物の考案と管理、また実際にイベントやプロジェクトの企画をすることが、総合企画委員会の主な任務です。全曹青をより身近に、ひいては寺院と社会、僧侶と檀信徒がより身近になるような活動を目指しています。

例えば、写経用紙。多種多様なラインナップで初心者から上級者まで体験していただけます。また、東日本大震災復興祈願プロジェクトとして、被災地に写経用紙を納経する『写経プロジェクト』を推進しています。

例えば、オリジナル散華『想華〜おもいばな〜』。カラフルなデザインが道場を荘厳します。メッセージカードとしても使用でき、亡きご先祖さまへ感謝の思い

を届けます。

例えば、花まつりキャンペーン。花まつりの普及を促すとともに、お釈迦さまに塗り絵をすることでお子さまに仏教への原体験と心の安らぎを与えます。

例えば、頒布ブース。管区大会などに出張し、全曹青頒布物の頒布やイベントの告知をしています。これは全国会員さまと顔を合わせ、意見交換をする絶好の場でもあります。

と、ご紹介できたのは一部ですが、その活動は多岐にわたっています。全国会員さまが総合企画委員会の活動をご理解いただき、布教化の一助となることを、委員一同、夢見て活動しております。

第21期総合企画委員会は、非常にユニークで有能な人材に恵まれました。諸先輩方の功績に合うよう精進し活動してまいります。

総合企画委員会紹介



山田俊哉
副委員長

全曹青に対して依然様ざまなご意見をお聞きします。見方によって印象は変わるもの。全曹青は一生懸命です。

私は初めての部署へ就かせていただきました。多才な仲間とともに、全曹青を発信してみたいと思います。

ぜひ当委員会の汗と涙の結晶、頒布物をご利用くださいませ。花まつりキャンペーン、お早めのご予約をー！



日向真学委員

岩手県曹洞宗青年会より参加させていただいております。日向真学でございます。

岡島委員長を中心として、委員会活動を通して会の発展に微力ながらお役に立ちたいと存じます。21期全曹青の一員で有る事に恥じぬよう精進していきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。



洞派正信委員

曹洞宗長野県第二宗務所青年会から参加しております。洞派正信と申します。

総合企画委員会の皆さまのお力添えを受けながら、頒布物の充実に努めていきたいと思えます。

至らない点もありますが精一杯努めさせていただきますので、2年間よろしくお願いたします。



鈴木文雄委員

今期から全国曹洞宗青年会に参加させていただいております。茨城県常安寺、鈴木文雄です。

初めての事ばかりですが、岡島委員長はじめ委員の皆さんにご迷惑をかけないように頑張ります。

全曹青で学んだ事を茨曹青でも生かしていきたいと思えます。

何卒よろしくお願いいたします。



宮本昌孝委員

山口県曹洞宗青年会から参加させていただいている宮本昌孝です。第21期スロ

ーガン「笑顔の君と おなじ空を見上げて」を実現できるよう、ない知恵を絞って考えています！何かアイデアがあれば声をかけて下さい。よろしくお願いたします。



有田友光委員

全曹青ってどんな所だろうと四国の田舎から東京へ、不安半分緊張半分で参加した委員会は各委員さんの熱い意見、地元のお菓子が飛び交う、ちょっぴりぎやかな委員会でした！

次回は私もみかんをお土産に持っていこうと思えます。



小林永季委員

今期より初めて参加する事になりました全曹青。未だ把握仕切れず、これまた会名を聞いただけでは理解の難しい総合企画委員会。

習うより慣れろで、まだまだ慣れませんが戸惑いながらも役に就き、メンバーにも恵まれ短期間ながら勤めて来たつもりです。

至らないとは思いますが、これからも精進してまいります。

連載 伝え方のデザイン

第①回

『伝え方のデザイン』 とは何か？

曹洞宗八屋山普門寺副住職

吉村昇洋

僧侶として生きるということは、仏道を歩む覚悟を引き受けるということである。そして、仏道を歩むということは、大乘仏教の流れにいる我々にとって、「布施・持戒・忍辱・精進・禪定・般若」の菩薩行、六波羅蜜を実践することに他ならない。僧侶は在家者（檀信徒）による財施（金銭や物品の布施）の実践によって生かされているが、そんな彼らに対して出家者は、法施（法話の布施）のお返しする。これは、道元禪師が『赴粥飯法』の中で記している『施財の偈』に詳しいが、財施と法施はあくまでも循環関係にあり、うまく回って円満成就するところにその妙味がある。つまり、在家者の施しによって生き長らえる出家者は、必ず法施（法話）をし続ける必要があるということなのだ。

「法話」と聞くと、ついつい「言葉で仏教のお話をする」と考えてしまいがちだが、必ずしもそればかりではない。人間同士のやり取りで成立するコミュニケーションには、バーバル（言語的）とノンバーバル（非言語的）の二種類があるように、ノンバーバルな法話というものもあり得る。釈尊の拈華微笑の故事などはその最たるものだろう。さて、本号から私の文章が7回にわたって掲載されることになった。そこで、「連載タイトルをどうするか？」という話を、大学院の同級生で永平寺の同安居でもある担当編集者とさんざん話し合った結果、『伝え方のデザイン』に決まった。

実を言うと、この『伝え方のデザイン』という名称は、今年の5月2日、3日に芝の増上寺で開催された「向源2015」の中の一つのイベントに由来している。「向源」は、神社仏閣にまつわることや伝統的な日本文化を体験できるワークショップを大量に集めた寺社フェスで、2011年のスタート以降、徐々に規模を拡大し、今年は2日間の開催で数千人を動員するまでに成長した。その中で、本号の『SOUSEI』でも取り上げられている「防災ガール」の田中美咲さんと、お笑い芸人の大川豊さんと、禅僧の私が壇上に上がり、「お笑い×防災×仏教—伝え方のデザイン」というタイトルで鼎談を行った。この時のタイトルも私の考えた案が採用された形になったわけだが、これを感じついた背景には「今の時代、僧侶にも色々な情報発信の仕方があるな」と思ったことに端を発している。

ところで、私達が普段何気なく使用している「デザイン」という言葉には、「意匠」と「計画」という意味がある。外来語である「デザイン」の和訳を試みた際に、この2つの意味を含む日本語が見当たらなかったことから、カタカナ言葉として定着することとなった。こう見ると、「デザイン」というカタカナ言葉自体も、デザインされたものだといく分かる。

では、「伝え方のデザイン」となった場合、どのような意味になるだろうか？ 伝え方の意匠と計画、つまり、仏の教えの何(what)をどのように(How)伝え、相手にとってこの教えがどのように機能するか？ という視点を持つことに他ならない。

しかし、ここまで読んで、「そんなくだらんことには興味がない。小細工に励むのではなく、我々禅僧は僧侶の自覚を持って日々のことを黙々と行じておればそれで良いのだ。檀信徒の皆さまは、我々の背中をよく見ておられる」とお考えの方もおいでだろう。確かにそれはその通りで、デザイン云々を語るまでもなく、精進する僧侶の姿に心を打たれ、仏道を共に歩みたいと考える檀信徒の方がおられるのもまた事実である。ただ、ここで指摘しておかなければならないのは、そうした僧侶の姿勢すら、デザインされた仏教の伝え方の一つに過ぎないということだ。

法施を行う僧侶にとって大切なのは、人々に仏教が正しく理解され、日常的に実践にまで結びつけてもらうことである。そういう意味で、先ほど例に挙げた体験型イベント「向源」などは、来場者の立場に立つてよくデザインされている。ご興味のある方は、ひとつのモデルケースとして、チェックしてみてはいかがだろうか。



【向源 2015】鼎談「お笑い×防災×仏教—伝え方のデザイン」
左より田中美咲氏、吉村昇洋師、大川豊氏

追悼 全曹青10期副会長 清水昭信師を偲ぶ

仏日山長命寺18世重興瑞光昭信大和尚の遷化に対し、深甚なる弔意を申し上げる次第である。

不肖とは昭和30年生まれで駒澤の同級生であり同じ学科でもあった。ご本山では春と秋とで重なることはなかったが、奇しくも全曹青10期で再会した。師は地元愛媛を代表したまた四国の

まとめ役としても全曹青に長く関わっておられ、当期の副会長として直接的に助力をいただいた。10期が発足するや会の20年という節目であると同時に、終戦50年の時でもありすぐに記念事業を模索した。師は会議でも決して多弁の方ではなかったが、柔らかい口調で「二年任期というのは極めて短い。多くの意見を聞くことも大事だが、(会長)思うようにしてゆくべきだ」と、決めかねる自らに対し、しっかりとイニシアチブをとることを叱咤激励してくれた。任期2年目に「五百羅漢供養」を大本山總持寺で開催する運びとなった。写真の1列目右手に師と櫻井、朝日両師の3人の副会長さんの姿が並んである。あれから20年が過ぎたが、この間のことにように懐かしい。

10月1日に大洲市内で行われた本葬儀には、会場は入りきれないほどの多くの参列者で埋まっていた。昭和55年10月1日に住職任命を受けられて丸35年。信仰の国四国の山あいに位置する古刹を護持し、境内整備、檀信徒教化、そして徒弟教育に邁進された師のお姿に「重興」の称が、永年の保護司としての活動に対し、法務

大臣賞の栄が添えられていた。学生時代茶道部の幹事長を勤めた師でもあった。あの時代の大学、そして青年会活動を共にしたお一人のあまりにも早い遷化に、ただただ無常の觀を深くするのみである。

切に念じる 品位を増崇せんことを。合掌
全国曹洞宗青年会10期副会長 吉川俊雄



全国曹洞宗青年会20周年記念大会 平成6年11月7日 大本山總持寺

編集後記

「ことば」とは何か？ 普段何も気にせず使っている「ことば」。しかし、時には人を救い、時には人を傷つける。その両面を合わせ持った「ことば」。

私が中学生の頃、部活でキャプテンをしていた時「誰よりも上手に」「誰よりもチームの為に」と悩み苦しんだ時期があり、その頃チームメイトに言われた「ことば」。

「キャプテンはエースじゃない」

私はこの「ことば」に救われ、気付かされました。自分は一人でキャプテンの役割もエースの役割もこなそうとしていた事、そしてなによりもチームメイトを信じていなかった事に。

今、ご縁有って『SOUSEI』に関わるなかで、人を救える「ことば」を発信出来ればと思う所存です。

(文／広報副委員長 鬼頭大輝)

特集の話

今回の特集「防災、人とのつながり」で、それぞれの立場から座談会、インタビュー、寄稿と別々の形でご提言をいただきました。その中で共通していたことが「他者との日頃の関係性が防災に繋がる」ということでした。知識や物資の備えだけでなく、日常の中で生まれるご縁を大切にすることが、災害から誰か(自分も他人も含め)を守ることに繋がります。そしてそれは、お寺が本来持つ地域の役割「人と人との心のつながり」とも直結しています。今回の特集が、その一助となれば幸いです。

お詫び

『SOUSEI』第170号(2015年8月発行)におきまして、一部冊子について写真が不明瞭・文字が裏移りしている等の印刷不備がございました。ここに詫言申し上げます。